

科目名	数的推理 I	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群	
			全学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Mathematical Processing Skills I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
ふりがな	むらなか たかし	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	村中 孝司	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	公務員採用試験の教養科目のうち、最も出題数の多い数的推理を取り組む。特に、方程式、不等式、整数など、出題頻度の高いテーマを学習する。			
到達目標	数的推理マスターを目指す。			
授業概要	公務員試験教養科目「数的推理」の基本を理解し、演習問題を解く。			
授業計画				
第1回	ガイダンス			
第2回	方程式① 文字式、等式、1次方程式、2次方程式の基本			
第3回	方程式② 方程式の文章問題			
第4回	不等式① 不等号、不等式の基本、連立不等式			
第5回	不等式② 不等式の文章問題			
第6回	方程式、不等式の実践問題			
第7回	整数① 自然数、倍数、約数、素数			
第8回	整数② 剰余類			
第9回	整数③ 整数に関する応用問題①			
第10回	整数④ 整数に関する応用問題②			
第11回	整数⑤ 虫食い算、覆面算、魔方陣			
第12回	整数⑥ 虫食い算、覆面算、魔方陣に関する応用問題			
第13回	整数⑦ 記数法			
第14回	整数⑧ 記数法に関する応用問題			
第15回	整数の実践問題			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	小学校算数、中学校数学、高等学校数学I・Aを理解しておくこと。 予習2時間、復習1時間程度必要です。予習していること(例題に目を通すこと)を前提として授業を進める。			
履修条件 受講のルール	公務員(大学卒程度)を目指す学生対象。基礎数学Iを履修済み、もしくは同時に履修すること。 高等学校数学I・A、基礎数学Iを理解していること前提に授業を進める。 遅刻厳禁、遅刻の場合は欠席扱いとする。 教科書を必ず持参すること。教科書を持参しない場合は欠席扱いとする。 予習、復習を心がけること。予習したかどうかを授業中に確認することがある。 教科書を必ず購入すること。適宜資料を配布するが、事前に連絡が無く欠席した学生には配布しない。 遅刻厳禁、1分でも遅れた場合は欠席扱いとする。 授業には筆記具は必須である。教科書のほか、ノート(ルーズリーフ可)を必ず持参すること。 第1回、第2回の両方ともに欠席した学生の受講を認めない。 授業中のスマートフォン使用、居眠り等に対しては、厳重に処分する。 また、小テストやレポート、参考書などに関する情報はすべてポータルサイトで周知する。必ず確認する			

	こと。
テキスト	田辺勉『上・中級公務員 標準数的推理』実務教育出版
参考文献・資料	講義中に紹介する。
成績評価の方法	<p>試験 (80%)、レポート・課題提出・小テスト (20%) 上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に小テストを行います。 ・レポート課題は授業内又は掲示板（ポータルサイト含む）で指示します。
オフィスアワー	火曜 14:40～16:10、水曜 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	テキストの購入は必須。持参しない学生の受講は認めません。